

理 研 会 報

行 部 局
理 科 研 究 部
印 教 研 事 務 局
成 田 市 立 成 田 小 学 校
成 田 市 幸 町 9 4 8 0 1

印 教 連 指 定 中 間 報 告

「自ら考え、

はたらきかける

楽しい理科学習」を目標として

四街道市立大日小学校

一、研究主題
自ら考え、はたらきかける楽しい理科学習

本校は平成元年度、平成二年度の二ヶ年にわたり、印教連及び四街道市教育委員会の指定を受けました。今までは、体育、国語、算数の三教科を中心に研究を進めてきましたが、理科という教科を本格的に研究するのは初めてのことに、ぜひ分戸感がありました。

しかしながら、印旛地方出張所今井和彦先生、運営委員長、五味健先生（成田市立公津小学校校長）をはじめ、印旛管内六名の先生方の御指導を頂きながら、研究を進めてきた結果、何とか軌道に乗ってきたところです。以下、本年度の研究の経過を述べていきたいと思えます。

二、研究経過

(1) 児童の実態

・実験は好きだが、結論を出したりするのが苦手

(3) 副主題

(低学年) 自然に親しみ、楽しく活動する理科学習

(中学年) 自然の事物、現象に興味・関心を持ち、追究していく理科学習

(高学年) 自ら問題を見つけ、解決する場を重視した理科学習

(4) 仮設

(低学年)

① 見たり、探したり、育てたり、作ったり、調べたり、遊んだりという活動を多く取り入れていけばよいだろう。

② 活動の中で五感を大切にしていけばよいだろう。

(中学年)

① 実験、観察、製作、栽培、遊びなどの活動を多く取り入れていけばよいだろう。

② 活動の中で、共通性、変化規則性を大切にしていけばよいだろう。

(高学年)

① 自ら問題を見つけ、解決する活動を多く取り入れていけばよいだろう。

② 活動の中で比較検討を大切にしていけばよいだろう。

研 修 報 告

第 39 次 県 教 研 研 究 会 に 参 加 し て (小 学 校 ・ 中 学 校)

小学校理科部会

八木原小学校 池田 幸夫

第 39 次 県 教 研 研 究 会 は、十 一 月 十 七 日 に 千 葉 市 で 行 わ れ ま し た。そ の 時

の 研 究 発 表 と 概 要 を 報 告 し ま す。

理 科 の 研 究 主 題 は、次 の 二 点 で し た。

(1)、よくわかり、児童が意欲を持って取り組む理科指導はどうかあるべきか。

(2)、地域の自然をふまえた正しい自然観を育てる理科教育は、どうかあるべきか。

研究発表は十提案で、(1)は七提案あり、問題意識を持たせるための導入の工夫やよくわかる教材教具の開発の工夫が見られました。

その中でも、特に「マイクロカプセル液晶を利用した対流の実験装置」は、温度変化が一目でわかるように工夫されていました。

また、植物の水の通り道を調べた方法として、従来食紅等を使っていたのを、カットカラーにかえて行う方法が紹介されました。

さらに、(2)の地域の自然をふまえたものでは、小動物に視点を当てて、野外観察マップを作成し引きとして活用していく方法が提案されました。

印旛支部五部会として、「考えの態度を育てる理科学習はどうあるべきか」という提案をしました。

自分から考えようとする意欲的な子どもを育てるために、低学年

研究体制のよさが目立ち、他支部からよい評価を受けました。

特に印象に残った研究を紹介しますと、「銚子半島の地史の教材化(銚子五中)」「これは大日本圖書の理科の研究やセンター発行の理科教育研究にも紹介されているのでご存じの方も多いことと思います。銚子の地史を丹念に研究され、それを御自身の絵を交えながらスライドを作成するなど、教材化の努力に敬服しました。また、光合成の教材を扱った「生徒が自主的に観察・実験に取り組む学習指導法の工夫(勝浦北中)」は、最後に、今回の県教研をふり返ってみると、子どもが意欲的に取り組むためには、普段の生活や授業の中で、疑問や問題を追求していくこととする態度を育てることが大切だと思えます。

去る十一月十七、十八日に行われた、第39次教研集会・中学校理科分科会の報告をいたします。

物理分野2、化学分野2、生物分野3、地学分野2、そして私たちの考える態度を育てる理科学習1と計10の発表がありました。その半数が教材・教具の開発であり、だき感謝いたします。また、オブザーバーという形も許されているようですから、校内事情が許されれば、若い先生方にもどんどん参加されることをお勧めいたします。

中学校理科部会
千代田中 三村 宏治
旭 中 角井 一郎

また研究体制ですが、印教研理科部会のように共同研究の体制が確立されているところはまれで、